

宇宙電波懇談会事務局（名古屋）発行

1. 野辺山宇宙電波観測所開所式行われる。

我々宇電懇会員の悲願ともいえる野辺山宇宙電波観測所が開所式を迎えました。ここで田中春夫氏にその様子を書いていただきました。

野辺山宇宙電波観測所開所式

所長 田 中 春 夫

野辺山宇宙電波観測所の開所式が、3月1日（月）新装なった観測所本館で行われた。制度上この観測所は、1978年4月、建設工事と共にスタートしていたが、このたび施設関係の工事がすべて終り、45m電波望遠鏡が、来る4月から本観測と全国共同利用態勢に入る段階を迎えて、実質上の開所式を行ったものである。

当日は、招待者約450名に対し、地元から約100名、東大事務局と文部省から約50名、関連研究機関から約50名、東京天文台関係約30名、外国公館

- | | |
|--|------------|
| ★ 宇電懇運営委員の改選（p ¹¹ 14 参照） | 5月10日（月）必着 |
| ★ 宇宙研の64m大型アンテナについて（p9参照） | 5月20日（木）昼 |
| （宇宙研教授 林 友直 交渉中） | 天文学会会場 |
| ★ 宇電懇総会（上記に引き続き） | 5月20日（木）昼 |
| | 天文学会会場 |

（5月20日は昼食用意します。）

から5名、それに報道関係者等を含め、計約300名の来賓を迎え、観測所と東京天文台事務部合わせて約45名が準備と応接に当たった。そして東京からは、2台の大型バスと1台の小型バスで送迎した。

式典は古在台長のあいさつに始まり、平野総長の式辞、施設部長および田中観測所長の経過報告があり、ついで伏見康治日本学術会議会長、長野県知事（代理）、オーストラリア大使館科学参事官の祝辞と続き、祝電披露のあと、台長から地元ならびに関係業者に対し感謝状贈呈が行われた。会場には会議室が当てられた。

祝賀会は図書室で行われたが、古在台長のあいさつのあと、関連研究機関の長老である永田武極地研所長の音頭で乾杯が行われ、ついで文部省の勝谷研究機関課長、井出衆議院議員、北條信大学長、業者を代表して三菱電機kk会長など来賓からのスピーチがあり、なごやかな歓談が行われて、16時前に、南牧村長のバンザイで幕を閉じた。

前夜に約20センチの積雪に見舞われたが、地元農家の応援で何とか除雪に間に合い、約100台の自家用車を、うまく整理することができた。式典に先立つ施設の見学も、時々小雪がちらついたとはいえ、あまり寒くなく、参加者に感銘を与えたようである。

五か国の大使館・科学担当官は、祝辞を受けたオーストラリアのほか、アメリカ、イギリス、西ドイツ、フランスである。

外国から、祝電を寄せられた方々は次の通りである。

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| ○ マックスプランク電波天文研究所長 | P. Mezger , R. Wielebinski |
| ○ 独仏連合ミリ波研究所長 | E. J. Blum |
| ○ カリフォルニア工科大学天文部長 | M. H. Cohen |
| ○ オーストラリアCSIRO所長（祝辞に委託） | P. Wild |
| ○ アメリカNSF天文部長 | L. P. Bautz |

- オーエンズバレー電波天文台長 A. Readhead
- ライデン大学 J. H. Oort
- メリーランド大学 F. Kerr
- アメリカ国立電波天文台長 M. S. Roberts
- 国際電波科学連合会長 W. E. Gordon
- インドネシア天文学会々長 B. Hidayat

(以下ノーベル賞受賞者)

- ベル電話研究所 A. A. Penzias
- カリフォルニア大学 C. H. Townes
- カナダヘルツベルグ天体物理研究所 G. Herzberg

その他連名で J. L. Locke, N. W. Broten ほか一同。

- ケンブリッジ大学 M. Ryle, A. Hewish

<祝電の例>

TO: PROF. H. TANAKA
DIRECTOR, NOBEYAMA RADIO OBSERVATORY,
NOBEYAMA MINAMIMAKI MURA, MINAMISAKU
NAGANO KEN 384 13, JAPAN

FROM: MORTON S. ROBERTS, DIRECTOR, NRAO, CHAR-
LOTTESVILLE

ON BEHALF OF THE NATIONAL RADIO ASTRONOMY
OBSERVATORY, I AM PARTICULARLY
PLEASED TO EXTEND OUR CONGRATULATIONS ON THE
OPENING OF THE NOBEYAMA RADIO OBSERVATORY.
YOU AND YOUR COLLEAGUES HAVE SHOWN GREAT
FORESIGHT
IN DESIGNING AND BUILDING THIS FOREFRONT IN-

STRUMENTATION. THE CONCERNS
OF CONSTRUCTION WILL NOW BE REPLACED WITH
THE EXCITEMENT OF RESEARCH AND PLEASURES OF
DISCOVERY.. WE WISH YOU A LONG AND FRUITFUL
IN MILLIMETER WAVE ASTRONOMY.

SINCERELY,
MORTON S. ROBERTS,
DIRECTOR

2. 日本の大型電波望遠鏡計画に身魂を傾けてこられた 田 中 春 夫 氏の御退官,
新しく野辺山宇宙電波観測所長として 赤 羽 賢 司 氏の御就任にあたり, 両氏
より挨拶をいただきました。

退 官 の ご あ い さ つ

田 中 春 夫

このたび長い国立大学生生活を終え、定年退官いたしました。名古屋大学にお
ける 26 年間、および東京大学における 6 年間を通じ、御指導、御支援を賜っ
た皆様方に厚く御礼申しあげます。

おかげ様で、野辺山宇宙電波観測所の開所式も盛大に行うことができ、新所
長のもとに共同利用体制も着々と整えられつつあることは、私として大変うれ
しく思っています。

一方日本の太陽電波の研究についても、長年の懸案である高分解能化を軸と
して発展してゆくことと信じております。

4 月からは東洋大学教授として、不慣れな電気の学生の教育に戸惑っていま
すが、やがて余裕が生じたら、「電波工学研究室」の名のもとに、電波天文の
みならず、更に自由な研究をも続けたいと考えております。

今後ともよろしくご指導，ご交誼を賜りますようお願い申し上げます。勤務先は下記の通りです。

〒350 川越市鯨井 2100

東洋大学工学部電気工学科

電話 0492-31-1211 内線 318

挨拶

野辺山の宇宙電波観測所長を拝命致しました。野辺山の大型装置は，諸外国や皆様方の大きな御期待，又私共のやむなき抱負を担って出発いたしました。しかし観測所は，現在見ての通り，聞いての通りの状況です。観測所の極端な人手不足をどうして行ったらよいか？最大の問題です。年次計画としては，45メートルの試験観測を終了し，本年度からはいよいよ一部本観測が始まります。観測所は引き続いて全力投球です。どうぞ今後共皆様方の御指導・御協力をお願い申し上げます。

少々だらしくとも（やるべきことが一応はやれて），「暖かみのある観測所」というのが私のモットーです。

野辺山宇宙電波観測所

赤 羽 賢 司

3. 宇電懇シンポジウム「大型宇宙電波望遠鏡による観測」報告

今年度の宇電懇シンポジウムは赤羽総研(A)の御援助のもとに1981年12月17～19日野辺山宇宙電波観測所の 新装なった本館 会議室において行われた。参加者は約70名であった。今回は大型宇宙電波望遠鏡による観測の「仮」プロポーザルを出してもらい，それらをもとに学問的問題点や共同利用

を進めていく上で議論しておくべき点などを明らかにして行くことを主な目的とした。仮プロポーザルは総数112件に達し大型宇宙望遠鏡に対する期待の大きさがうかがわれた。これらのプロポーザルは各々ユーザー側、観測所側からのレビューアーによりライン観測、コンティニューム観測等の項目別にレビューが行われ色々な問題的抽出がなされた。中でも興味ある天体の数は「星の数」ほどは無いことなどから同一のオブジェクトに似たような観測プロポーザルが集中することが明らかになった。これについては共同利用を進めて行く上において重要な問題点となることが予想され、共同利用のあり方として単なる装置の共同利用だけでなく object の「共同利用」即ち共同研究の新しい形を確立する必要があることが痛感された。シンポジウムの集録については会場にて「そのⅠ・プロポーザル集」が配布されたが、シンポジウムの内容についての「そのⅡ」も引きつづき発行される予定である。今回は天候にも恵まれ完成間近の45m鏡や干渉計を明るい日射しのもとに見学出来たことはまことに結構であった。また恒例の懇親会は近年に無い盛り上がりを見せたことは主催者として喜ばしいことでありました。

(渡 辺 堯)

4. 運営委員会報告

1) 12月19日シンポ終了後拡大運営委員会を開催

- ・ 野辺山宇宙電波観測所研究員(PDF)制度が1982年度発足の予定との報告。(資料1参照)
- ・ 4月より発足する共同利用委員会の東京天文台外委員は運営委員による6名連記無記名投票の選挙を行ないそれに従って台長に推選することにした。
- ・ 共同利用委員会の下部機関として運営専門委員会の設置を同委員会に要

望する。

- 運営専門委員の観測所外委員の選出は運営委員による6名連記無記名票の選挙を行いそれに従って共同利用委員会に推薦することになった。

2) 3月1日, 2日 開所式後, 運営委員会開催。

- 前回の運営委員会の決定により運営委員による選挙が行なわれた。その結果は次の通りである。

共同利用委員会の台外委員

	票 数
1 藤 本 光 昭	10
2 小 暮 智 一	9
3 田 原 博 人	8
4 鰻 目 信 三	8
5 会 津 晃	7
6 小 田 稔	5
7 高 窪 啓 弥	4

運営専門委員会の所外委員

	票 数
1 田 原 博 人	9
2 甲 斐 敬 造	9
3 鰻 目 信 三	8
4 小 平 真 次	5
5 福 井 康 雄	5
6 小 川 英 夫	5
7 藤 本 光 昭	4

この結果，共同利用委員の台外委員としては上位6名を，運営専門委員会の所外委員としては上位7名を推薦することになった。

● 次期事務局について

宇電懇事務局は，現在まで名大理・空電・東京天文台（野辺山）の3者で回してきたわけであるが野辺山観測所の発足に伴い，ホストである野辺山以外で引受けるべきだという意見があり至急検討することになった。

5. 第1回共同利用委員会報告

委員の藤本氏に取材したものです。

第1回 共同利用委員会

1982年4月5日

1. 共同利用委員会委員

天文台外委員 会津 晃，鰐目信三，小田 稔，小暮智一
田原博人，藤本光昭

台内委員 *赤羽賢司，守山史生，高瀬文志郎，内田 豊
森本雅樹，甲斐敬造，海部宣男

天文台長 古在由秀

*議長

2. 大型電波望遠鏡・干渉計の建設・進行状況の説明，立ち上げの準備状況。

10月からの共同利用開始について。

3. 共同利用委員会の内容・責務その他についての話し合い。

○ 予算配分概算要求

- 所員の人事

以上何れも天文台との関係で実行されるが共同利用委員会での議論は重視される。人事に関してもよい案があればとり入れる。

- 観測計画，プログラムなどを検討する委員会は重要である。

外国人研究者をどうするか，6 月中に大要を決める。

- 運営専門委員会の委員会名，その責務について十分理解が得られなかったので引きつづき討議をする。

- 研究員公募後の決定については 6 月頃の予定。

- 計算機共同利用は鰐目，甲斐，石黒が担当。(資料 2 参照)

- 種々の規約の説明

4. その他

- 所員の数の絶対的不足とその対策について話し合う。

- 次期共同利用委員会 4月24日(土) 10:00～15:00 東京天文台にて

以 上

6. 宇宙研大型アンテナについて

宇宙科学研究所で現在，深宇宙探査用大型アンテナが計画されています。

このアンテナはハレー彗星探査計画に伴って建設されるもので，今年度より建設が開始され，昭和 59 年度完成を目指しているものです。このアンテナは電波天文学への利用も考えられており，我々も早急に対応してゆく必要があります。

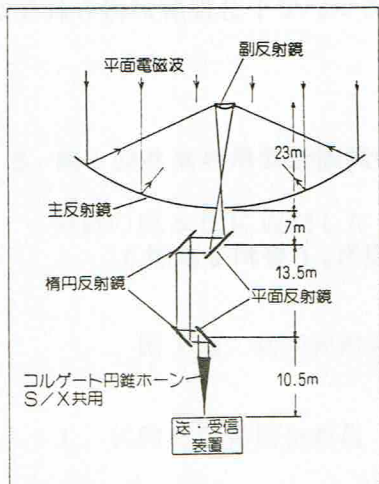
よって今回天文学会の時に宇宙研の 林 友直教授（交渉中）に来ていただい
てお話を聞く機会をもうけましたので多数の参加をお願いします。

宇宙研 64 m 大型アンテナについての懇談会

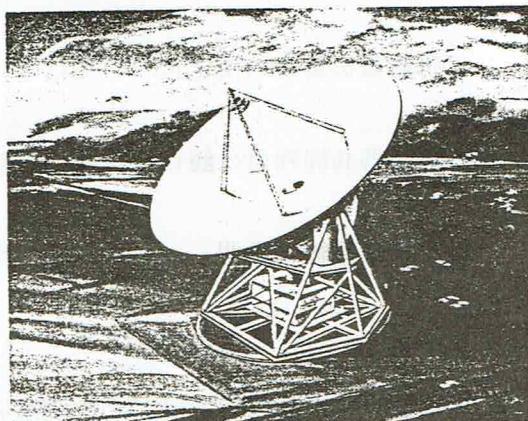
5月20日(木) 天文学会午前の講演終了後

(引き続き宇電懇総会を予定しております。)

弁当を用意します。



4回反射型導波給電部及び
SX共用コルゲートホーン



深宇宙探査用大型アンテナ (完成予想図)

ISAS ニュース No. 10 より複写

7. 会員移動

移動	横 沢 正 芳	北 大 ・ 理	→ 茨城大・理・物理
	野 本 憲 一	茨 城 大 ・ 理	→ 東 大 教 養
	田 中 春 夫	東 京 天 文 台	→ 東 洋 大 ・ 工
	秦 茂	東 京 天 文 台	→ (三鷹光器予定)
	浜 嶋 清 利	東 京 天 文 台	→ 相 山 学 園 高 校
	佐 藤 文 男	千 葉 教 育 セ ン タ ー	→ 兵 庫 教 育 大
	祖 父 江 義 明	名 大 ・ 理	→ 東 京 天 文 台
	加 藤 龍 司	名 大 ・ 理	→ 野 辺 山 宇 宙 電 波
	中 井 直 正	名 大 ・ 理	→ 宇 都 宮 大 ・ 教 育
			→ 東 大 ・ 理 天 文 D 1

宇 山 喜一郎	宇 宙 研 → 名 大 ・ 理
奥 田 治 之	京 大 ・ 理 → 宇 宙 研
高 原 まり子	京 大 ・ 理 → 東 大 ・ 教 養
新 入 武 田 英 徳	京大・工・航空工学
杉 谷 光 司	名 大 ・ 理 ・ M1
高 羽 浩	名 大 ・ 理 ・ M1

8. 宇電懇運営委員の改選について

第Ⅶ期運営委員の任期が切れますので改選を行います。運営委員は 10 名，
内委員長 1 名。任期は今年 5 月より 2 年間です。

記

5 名連記 無記名投票とする。そのうち委員長に○印を付ける。

投票締切りは 5 月 10 日(月)

このページの下の投票用紙に記入のうえ添付の封筒を御利用になり

〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部物理 A 研

宇電懇事務局

まで御送り下さい。

.....切 取 線.....

宇電懇運営委員(第7期)投票用紙

5 名連記 委員長には○印を！



資料 1

野辺山宇宙電波観測所研究員制度内規

1. 人 員 2 名以内とする。
2. 任 期 2 年未満
3. 待 遇 日本学術振興会奨励研究員と同額程度とし、
本委員会の議を経て決定する。
4. 研究場所 原則として、野辺山宇宙電波観測所とする。
募集分野等については、本委員会でその都度
決定する。
5. 応募資格 大学院修士課程修了または、それと同等以上の
者で当研究員に専任する者。
6. 提出書類 履歴書，研究計画，論文リストおよび主要論文
の別刷，希望の研究場所が野辺山でない場合は、
その理由書。
7. 募集選考 募集は公募とし，選考は本委員会で行う。

野辺山宇宙電波観測所

共同利用委員会

今年度は4月24日締切。公募要項関係機関配布済。

資料 2- (1)

大型計算機利用公募について (関係機関配布済)

東京大学東京天文台野辺山宇宙電波観測所

大型計算機利用公募について

東京大学東京天文台野辺山宇宙電波観測所

所 長 田 中 春 夫

当所に設置されている大型計算機 (FACOM M-200) は、大型宇宙電波望遠鏡の観測ソフトウェアの開発、観測データの処理・解析を主たる目的としていますが、計算機の有効利用をはかるため下記の要領で暫定的に共同利用に供します。

記

- (1) 利 用 目 的 : 天文学の研究であること。
- (2) 利 用 資 格 : 国・公・私立大学及び国・公立研究機関に属する研究者またはこれに準ずる者。大学院学生、研究生については、指導教官の承諾書 (書式は自由) を添えて申請して下さい。
- (3) 利 用 期 間 : 昭和 57 年 4 月 ~ 8 月
- (4) 利 用 限 度 : 1 回につき 6 日以内とし、日曜・祝祭日及び夜間の利用は原則としてできません。
- (5) 旅 費 : 交通費・日当・宿泊費等は、文部省旅費規則等に沿って実費程度が支給されます。
- (6) 必 要 書 類 : 計算機共同利用申込書
- (7) 応 募 締 切 : 昭和 57 年 4 月 20 日
- (8) 審 査・決 定 : 共同利用委員会で審査し、採否を決定します。
- (9) 研究成果等 : 観測所に利用報告書を提出すること。また出版に際しては、共同利用の成果であることを明記すること。
- (10) その他具体的事項
: 本計算機の主たる目的を遂行するため、それ以外の計算が制限を受けることがあります。また大型計算機センターのようなサービスはほとんどできませんので、共同利用に当っては十分この点を御承知下さい。
◎計算機システム構成図 (別紙)
- (11) 問 い 合 せ 先 : 公募に関する問い合わせは下記に連絡して下さい。
野辺山宇宙電波観測所 (担当: 石黒助教授、川合事務官)
- (12) 応 募 宛 先 :

〒 384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山

野辺山宇宙電波観測所

(「計算機利用応募書類在中」と朱書きして下さい。)

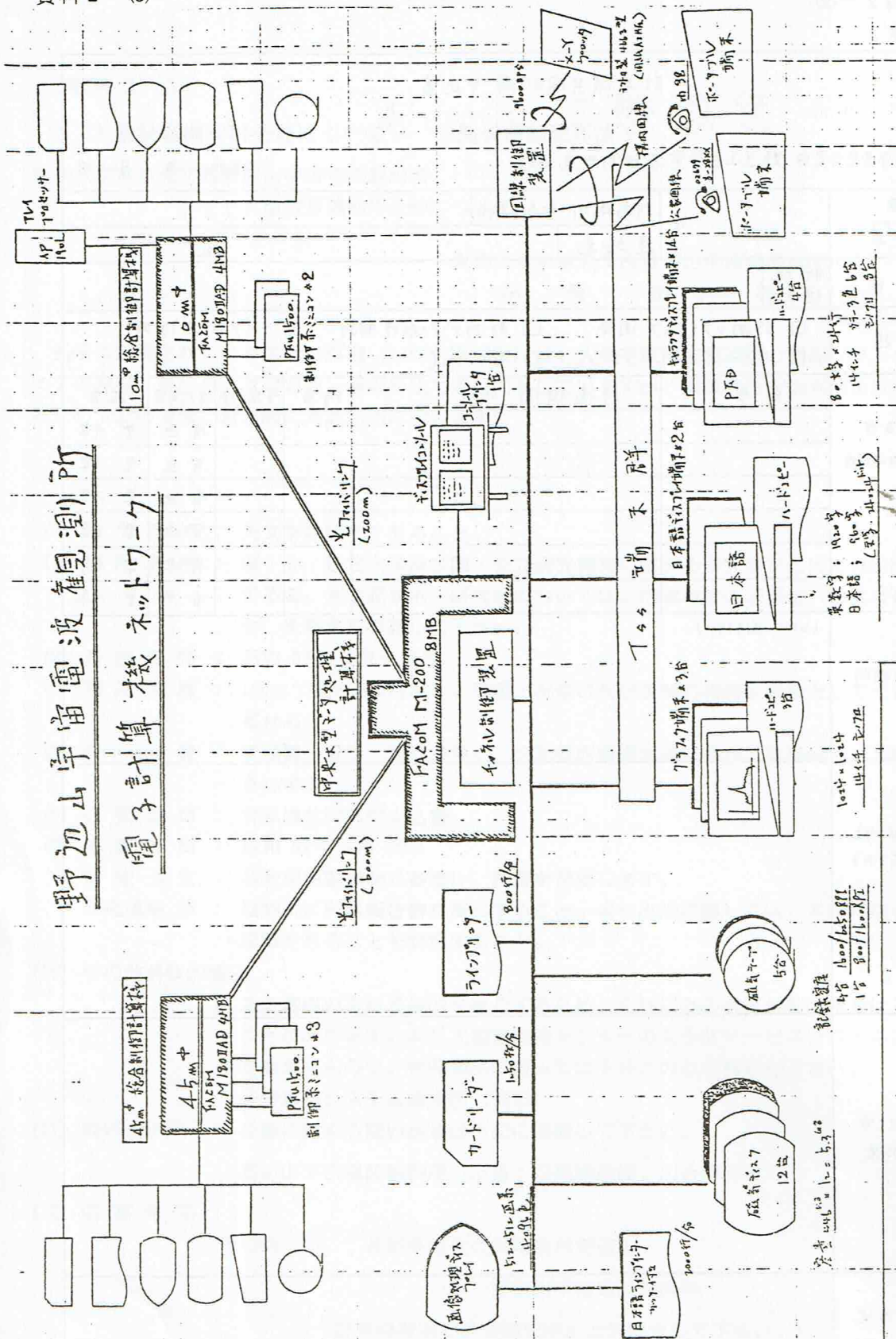
計算機共同利用 申込書

東京大学東京天文台 野辺山宇宙電波観測所 所長 殿

昭和 年 月 日

代表者 フリガナ 氏 名	印	所属機関 部署 職名				
		連絡先	TEL			
題 目	新規 継続					
分 類	☐ 観測ソフトウェア開発, ☐ 観測データ処理解析, ☐ データベース作成 ☐ 理論・シミュレーション, ☐ その他()					
代表者 共同研究者	氏 名	所属機関・部署	職名	等級	来庁希望	旅費
					有 無	要 不 要
					有 無	要 不 要
					有 無	要 不 要
					有 無	要 不 要
					有 無	要 不 要
					有 無	要 不 要
希望 利用期間	(おへく具体的に)					
研究目的の 必ず得られる 成果						
現在までの 研究成果						
その他希望						

電 算 機 科 学

[illegible]

1: Job 租屋 費用 2000000
} NJE (New work Job Entry)

2) 7004 2004 2004 2004 2004 2004 2004 2004 2004 2004

血像(1) 1977.7.10